



北米ホーリネス教団  
オレンジ郡  
キリスト教会  
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am  
 コヒーアワー : 日曜日 10:45~11:15am  
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm  
 みふみ会 : 水曜日 10am  
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm  
 早天祈禱会 : 土曜日 7am  
 家庭集会 : 各地区に2箇所  
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)  
           益田デーロ (英語部)  
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)  
           (714) 527-1456 (牧師館)  
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com  
 教会ホームページ : www.occc.org  
 教会所在地 : 4872 Bishop St.  
                   Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「やけど」

この二十八日はメモリアルデーで、オレンジ郡教会の青年たちはハンチントン・ビーチでバーベキュー大会をした。四十名以上の家族連れが集まった。僕は午前十一時頃に着くと、すでに糸山ファミリーたちが場所を確保してくれていた。いつも彼らが一番乗りだ。そこでの楽しみはやはりバーベキューだ。チキンや牛肉、ソーセージなどが次々と焼き上がってくる。思わず食欲をそそる。一通り食事が終わり、牧師のメッセージもいつものヨセミテで盛り上げ、その後もビーチバレーや昼寝などをそれぞれ自由に過ごしていた時だった。僕は午後から参加された人たちもいたので、彼らのお相手をしていく時だった。近くに居た子が突然オイオイ泣きながらお母さんのもとに走ってゆくではないか。何かにぶつかっただか、子どもたちどうして喧嘩でもしたのかなと一瞬思っただけ、その子を抱きしめている母親の所に行ってみると、近くにあったファイアー・ピットに入ってしまった残りの残り火でやけどをしたようだという。そのピットは別に煙が上っていた訳でもなく、一見、火が残っているとは思えないような状態であった。でも、近くにいた人がそこに水を入れたところ、ジュウという音と共に、灰が舞い上がって行くのではないか。火の気のないようなピットの底には、まだ昨晩からの残り火がしっかりと残っていたのだ。そこに火の気があると、は知らない三才の幼な子が片足を突っ込んだのだ。僕はすぐにドリンクを冷やしていた氷水でその子の足を冷やし、その間も何人かが近くの救助隊員に連絡に行ってくれた。診断の結果、水ぶくれで二度火傷だという。でも大事をとって近くのホウグ病院に救急搬送されたのだ。

一見してピットの中は火の気も何も見えやしない。恐らく灰と化してしまったその底にやけどをするような残り火があるとは誰ひとり気付くはずもないような状態である。しかし、そのピットの外壁には誰の目にも明らかかなように赤く「Danger! Hot Ashes」(灰が熱く危険) というサインがくっきりと彫られている。これまで全く気にしていなかった近頃のピットに、幼な子の命にも関わる危険がひそんでいたとは、日本流に言えば、「想定外」となるのだろう。箴言に「わたしの言葉を、心に留め、わたしの戒めを守って、命を得よ」(4・四)というソロモンの警告がある。ピットには大きな文字で危険とある。しかし、それがどんなに危険なのかは、はた目には決して分からない。でも、それが命に関わることだと聖書は言う。神ご自身の警告にこそ、心を留めなければ!

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

